

カウンセリングのお作法

第二十五回

CONカウンセリングオフィス中島 中島(水鳥)弘美



高齢の方に対する支援 基本姿勢

今回は、高齢の方と接するときの基本姿勢について話します

高齢者といっても、おひとりおひとり特徴はことなります。

つい最近、定年退職をした人、継続して仕事をしている人、数多い趣味とともに暮らしている人、ボランティア活動をしている人、孫育て中の人、お互いに支えあいながら生活している夫婦、後期高齢者と呼ばれる七十五歳以上の人、何かの持病を持つ人、元気な高齢の人なども、もちろん多くおられます

そのような高齢者について、介護福祉士や社会福祉士などの対人援助職を目指す学生さんが、

「おじいちゃんやおばあちゃんと子どものころから仲良かったので、高齢者と接するのは慣れているから、高齢者施設で働きたい」

「いつも身近にいたので、高齢者の方と接する仕事に就きたいと思っている」

という話を耳にすることがあり、若い人たちが高齢者に関心を向けていて、うれしく感じます。

一方、高齢の人々も、自分よりもうんと若い、孫のような年齢の人たちに対して、好感を持っていくように、中には、同世代よりも若い人や職員さんと話すほうが楽しいという人も多いです。若い人が周りにいて、きびきびと動く姿をみるのはすがすがしい気がします。

それでは、若い人と高齢の人が出会えばすぐに歩調が合うかという点、それはなかなか簡単にはいかないようです。

高齢の人がたびたび口にするのは、

「若い人には年寄の気持ちはわからない」ということです

あまりにも、年寄り扱いをされることには抵抗がありますが、年寄りの気持ちは年寄りになってみないとわからないだろうと思いが強いようです。

少し話をうかがってみると、

「たとえば、若い人に車椅子を押してもらおうと歩く速度が早すぎて、落ち着かない、どんどん歩いていく、もつとゆっくり周りの景色を楽しみたいのに、くたびれるのです」という。

自分の孫や、若い人や学生さんたちと関わるのはうれしい反面、彼らのテンポで車いすを押して歩くと、高齢の方にとって、早すぎる、もつと年寄りの時間の流れがゆったりペースであることを知ってほしいというのです。

確かに、思い浮かぶことが多くありそうです。

高齢の人々



仕事をしています



孫育て中



支えあいながらの生活



後期高齢者



高齢者と接するときの基本姿勢

「出かけるのは面倒ですね」

私たちは、高齢者の方に対して敬意を表する気持ちはありますが、高齢者の感じ方を具体的に理解することがこれまでに以上に、必要かもしれません。

それでは、手助けや、支援を必要としている人と接するときの基本姿勢について、場面を想定して考えてみましょう

あなたと利用者さんである高齢者との関係は

「あなたが利用者のところへ支援員としてすでに二、三回訪問したことがある」

として考えて下さい。

●ひとり暮らしのタロウさんは、話し友達がほしくて公民館での囲碁サークル活動に参加したいのですが、出かけるのが面倒なために参加するかどうか迷っています。

このような場合どのような対応や言葉かけを行いますか、考えてみてください。

基本姿勢 出かけるのは面倒ですよ

出かけたかと思っているのなら、どうしたら出かけられるのか、何を手伝おうという気持ちに支援する立場は考えがちですが、まずは、感じ方、気持ち重視です。

ここでの基本姿勢は、タロウさんの気持ちを受けとめて、出かけるのは面倒という思いを理解を表します

新しいことにとりかかるのは年齢を重ねると負担になります。同じことをくりかえす行動に比べて、初めてのことやたとえやりたいと望んでいることでも、体を動かしたりすることは、億劫です。

そのために、出かけない理由、行かない理由をたくさん持っています。

「午後から雨が降りそうだからやめておくれ、雨の降らない日に行くわ」

などです。

ここで、言葉かけとしては、

「どんなことから面倒だと思われるのですか」

どのような理由を持っているのかを尋ねます。

それが、足が痛いとか、初めてのところは苦手とか、さまざまな事情が浮かびあがってきます。

最初は見学だけでも良いとか、公民館までの送迎があるとかの情報を提供しつつ、最終的には、

「今日はどうぞされますか」

と改めてお気持ちを確認するために尋ねます。どちらを選んでも利用者さんの決定を重視します。

一人暮らしのタロウさんは、話し友達がほしくて公民館での囲碁サークル活動に参加したいのですが、出かけるのが面倒なために参加するかどうか迷っています。

どのような対応で、言葉かけを行いますか？



出かけるのが面倒

基本姿勢

出かけるのは面倒ですよね



どんなところから面倒だと思われるのですか？



足が弱いし

新しいところに行くのはちょっとねえ



高齢者と接するときの基本姿勢

事情をきかせていただけるようにする

もうひとつ考えてみましょう

あなたは対人援助職系の学校卒業後、勤務二年目の職員として考えて下さい。

特別養護老人ホームに入居しているいつも物静かなイチ子さんは、茶話会の席で陽気に振る舞っている職員のあなたに向かって

「若い人はいいいね。いつも元気で」

と、少し語気を荒げて言いました。

あなたは、どのような言葉かけを行いますか？

基本姿勢

いつもと違うイチ子さんの態度は何かのサイン、何かを伝えたがっているのかもかもしれませんが、どのようなお気持ちなのかわかりま

せん。イチ子さんの気持ちをぜひ理解したいという態度を示します。

語気を荒げていることから、機嫌が悪そうと決めつけて、理解できていないうちにさきに謝らないことも大切です。

対応の例

職員) このお菓子、きょうおいしそう

イチ子) 若い人はいいいね。いつも元気で。

職員) (イチ子さんのところに近づき)

イチ子さん、どうされました？

イチ子) 別に。

職員) 本当ですか確かにそうなのですか、

・・・今でなくてもまた後でもぜひ

お気持ちを聞かせて下さい。

イチ子) いやあ。

話してもらうことは難しいけれど、話したいことや希望がある場合には、言葉にして説明してもらうように、心がけます。

ときには、状況に応じて、ワンダウンポジションの態度も必要です。

「私たちの対応で、何か良くないところ、失礼がありましたら、おっしゃってください。」

と、尋ねます。

職員の態度がやかましいと思ったのかもしれませんが、体調がすぐれないのかもしれないし、面会予定の息子さんが来られなくなっ

てさびしくなったのかもしれない。すべてを理解することはかありませんが、お互いが何を考えているのを感じているの

特別養護老人ホームに入居しているいつも物静かなイチ子さんは、茶話会の席で陽気に振る舞っている職員のあなたに向かって

「若い人はいいいね。いつも元気で」と、少し語気を荒げて言いました。

どのような対応で、言葉かけを行いますか？



若い人はいいいねいつも元気で！



基本姿勢

どうされましたか？何かありましたか？



CON 子さん 心理カウンセラー

できるだけお互いの気持ちを言語化するようにこころがけます
「お気持ちお聞かせください」